

あきた型ほ場整備 事例集

Vol.1



令和4年3月
秋田県農地整備課

No.	地区名	市町村	関係土地改良区	事業工期	受益面積 (ha)	地区の属性・特徴								
						タイトル	完了地区 (R3時点)	中間・山間 地域 (※旧市町村)	農地集積 100%	(集積率)	園芸メガ 団地	スマート 農業	高収益作物 関連支援事業 (耕作条件改善 事業)	その他 特色
1	すえひろ 末広	鹿角市	かつの土地改良区	H27～R4（予定）	138.8	ネギの大規模経営で年商1億円 ～中山間集落の挑戦～		●		91	●		●	地域雇用
2	かみかわぞい 上川治	大館市	大館市土地改良区	H27～R4（予定）	227.1	上川治を畑作物の一大拠点へ				99	●		●	法人連携
3	とどろき 轟	能代市	二ツ井白神土地改良区	H24～H30	69.3	白神ブランドを生かした地域農業の確立	●			88	●	●		地域 ブランド
4	こがけ・おにかみ 小掛・鬼神	能代市	二ツ井町土地改良区	H28～R4（予定）	25.0	ほ場整備は未来への架け橋 ～中山間地域で若者に魅力ある農業の実践～		●		90	●		●	若手農業者
5	ごじょうめすぎさわ 五城目杉沢	五城目町	馬場目川水系土地改良区	H24～H30	31.6	元気な杉沢農業を目指して ～集落ぐるみで高収入農業の実現を～	●	●		98				集落型法人
6	ひらさわ 平沢	秋田市	雄和中央土地改良区	H25～R1	109.4	ひらさわびとの現在 ～地域課題を解決し、活力ある平沢農業を目指す！！～	●	●		91	●			地域交流
7	ひらね 平根	由利本荘市	由利本荘市土地改良区	H25～H30	54.7	次世代へ繋ぐ鳥海三の心意気 ～もの（農産物）づくり、とき（伝統）づくり、さと（平根）づくり～	●	●	●	100	●		●	地域雇用
8	かたのじゅうにとうげ 潟野十二峠	仙北市	－	H26～R1	25.3	地域に根付く農業を目指して ～山間集落の挑戦～	●	●	●	100			●	元気な中山間 応援事業
9	はたやちゅうおう 畑屋中央	美郷町・大仙市	美郷町千畑土地改良区ほか	H29～R6（予定）	291.5	地域の「人・物」総動員で新たな農業 ～稲作中心から複合型農業経営へ～				86	●	●		スマート 田んぼダム
10	さかいまちせいぶ 境町西部	横手市	秋田県南旭川水系土地改良区	H29～R4（予定）	35.0	地域がつながる新たな営農への挑戦				94		●		耕畜連携
11	せきぐち 関口	湯沢市	湯沢雄勝土地改良区	H30～R5（予定）	26.0	三位一体あきた型ほ場整備 で進める”せり、ねぎ”の園芸メガ団地 ～三関の”おいしい”を食卓に届けます～		●	●	100	●			農福連携
計	11地区						5地区	7地区	3地区		8地区	3地区	5地区	

ネギの大規模経営で年商1億円 ～中山間集落の挑戦～

農地集積加速化基盤整備事業
末広地区（鹿角市十和田末広・瀬田石）

事業概要

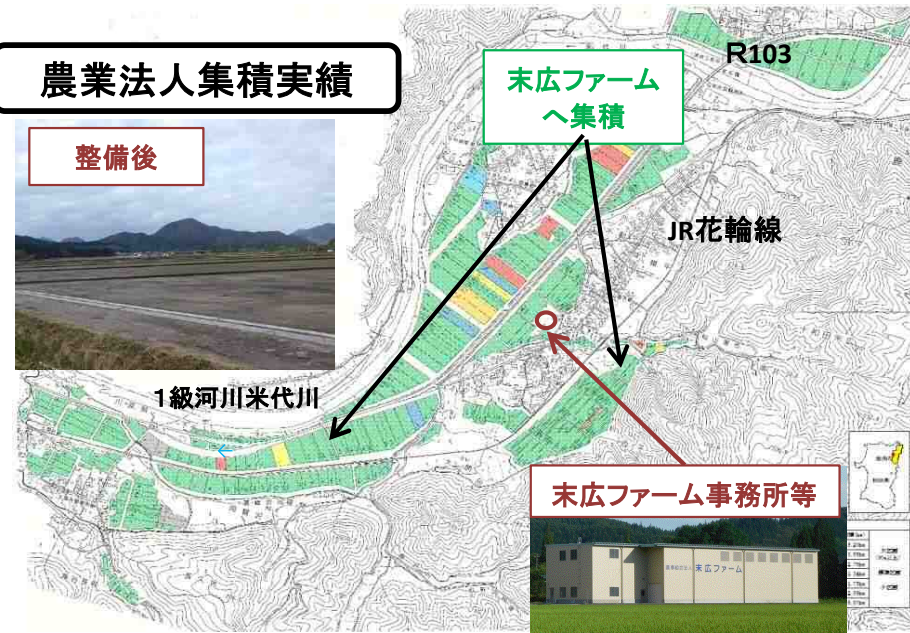
- 受益面積 A=138.8ha
(うち区画整理A=128.5ha、用排水整備A=10.3ha)
- 関係農家 226戸
- 総事業費 3,496百万円(R3時点)
- 営農実績 農業生産法人 5法人
 - ・農事組合法人 末広ファーム(H25.2設立)
(地区内118.1ha、地区外3.2ha)計121.3ha
 - ・農事組合法人 十和田南ファーム(H25.3設立)
(地区内2.7ha、地区外17.3ha)計20.0ha
 - ・農事組合法人 大森農産(H25.4設立)
(地区内3.6ha、地区外18.1ha)計21.7ha
 - ・農事組合法人 成田農産
(地区内1.1ha、地区外9.0ha)計10.1ha
 - ・株式会社 アグリ柳沢
(地区内1.7ha、地区外4.1ha)計5.8ha
- 個人担い手 2名
(地区内3.2ha、地区外24.3ha)計27.5ha
- 農地集積率 現況 31.3% → 実績 91.0%
- 関係土地改良区 かづの土地改良区

地区の特徴

- ①戦略作物への取り組み
 - 鹿角市の重点作物のねぎ、キャベツ等を通年栽培し、法人の労働力を有効活用している。
 - 鹿角市ブランド米「特別栽培米淡雪こまち」の作付けを行い、販路の拡大へ。
 - 法人は積極的に地域労働力の活用(雇用)を行い、地域の活性化や所得向上に向け取り組んでいる。
- ②大規模経営の中心地に選別施設を建設
 - 全国的な観光地である十和田八幡平国立公園、東北自動車道十和田ICの近隣といった地理的な優位性を活かし、受益地内に中心となる末広ファームの事務所と選別施設を建設し、大規模栽培に対応できるように整備した。
- ③メガ団地の継続へ
 - 年商1億円を目指し、ネギを中心とした高収益作物を展開し、法人の安定した収入源となるよう、末広ファームにて収穫から選別・出荷を一体的にできる体制を整備した。現在は、県の支援を受け行っているが、自立した生産体制を築き、安定した経営を目指している。



農業法人集積実績

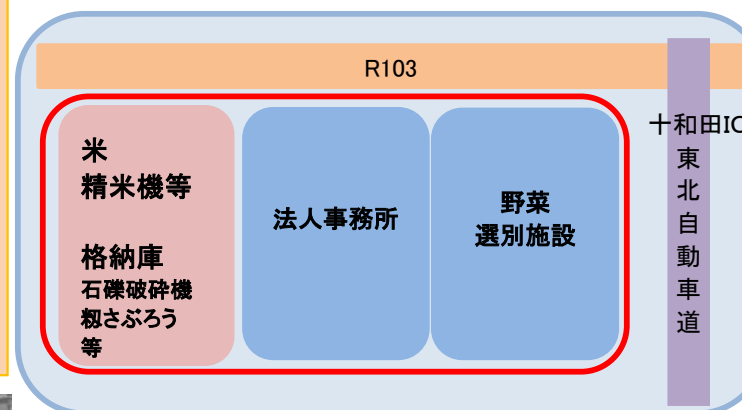


①戦略作物への取り組み

- 冬期間の法人の収入源としてハウス栽培を拡大。
- 通年営農できるねぎを中心とした高収益作物への取り組みを行っています



②大規模経営の中心地に選別施設を建設



令和2年度に施設が完成し、メガ団地としてスタートラインに立ちました！！

集積率
約60%UP



③メガ団地の継続へ

ねぎを中心とした園芸メガ団地を形成しています。



ストーンクラッシャー(ジョンディア)による土層改良を実施

末広ファーム
・R3営農計画
水稻:84ha
ねぎ:13ha(秋田県内最大級)
キャベツ:3ha 大豆:20ha

④地元の声(末広ファーム)

ほ場整備(面工事)を終えて

- 区画が大きくなったことで大型機械の良さが身に染みてわかった。耕起も代掻きも格段に早くできるようになった。
- 石が多い地域だが、ストーンクラッシャーがあるおかげで園芸作物ができるようになった。以前では考えられなかった。
- 大規模経営で忙しいが地域住民の協力により労働力の確保ができています。60歳以上の方がメインだが、就農意欲のある若者の採用やUターンしてきた方の採用を考えている。難しいが今後も法人を存続する上で必要なことなので進めていきたい。
- 令和3年から県内最大規模のねぎ団地として作付けしている。JAを通じて全量販売できるように品質の確保とブランド化もできればと考えている。

～上川沿を畑作物の一大拠点へ～

地域営農実践

農地集積加速化基盤整備事業 上川沿地区(大館市山館ほか)

事業概要

- ①受益面積 A=227.1ha
- ②関係農家 303戸
- ③総事業費 5,413百万円(R3時点)
- ④営農形態
農業法人 平成27年3月設立
(農)山館ファーム 58.3ha
えつりファーム(株) 62.3ha
(農)池内ファーム 43.9ha
(農)ファーム小館花 60.5ha
- ⑤農地集積率 現況36.7%→現在99.0%
※農地中間管理事業活用

集積状況図

経営形態現況図

事業実施前 86.4ha36.7%



経営形態計画図

現在 225.0ha、99.0%



営農構想時(採択前)

新たな法人を核とした農地の集積

- 新たに4つの農業法人「山館、池内、小館花、餌釣」を設立し、地域が抱える課題を、ほ場整備と農地集積100%で解決に向かう。
- 地域の課題
 - ・大部分が未整理、排水不良、道路狭小
 - ・高齢化による担い手不足、集落存続危機
- 法人化による、大型機械の導入により、農作業の効率化、生産コストの低減を図る。

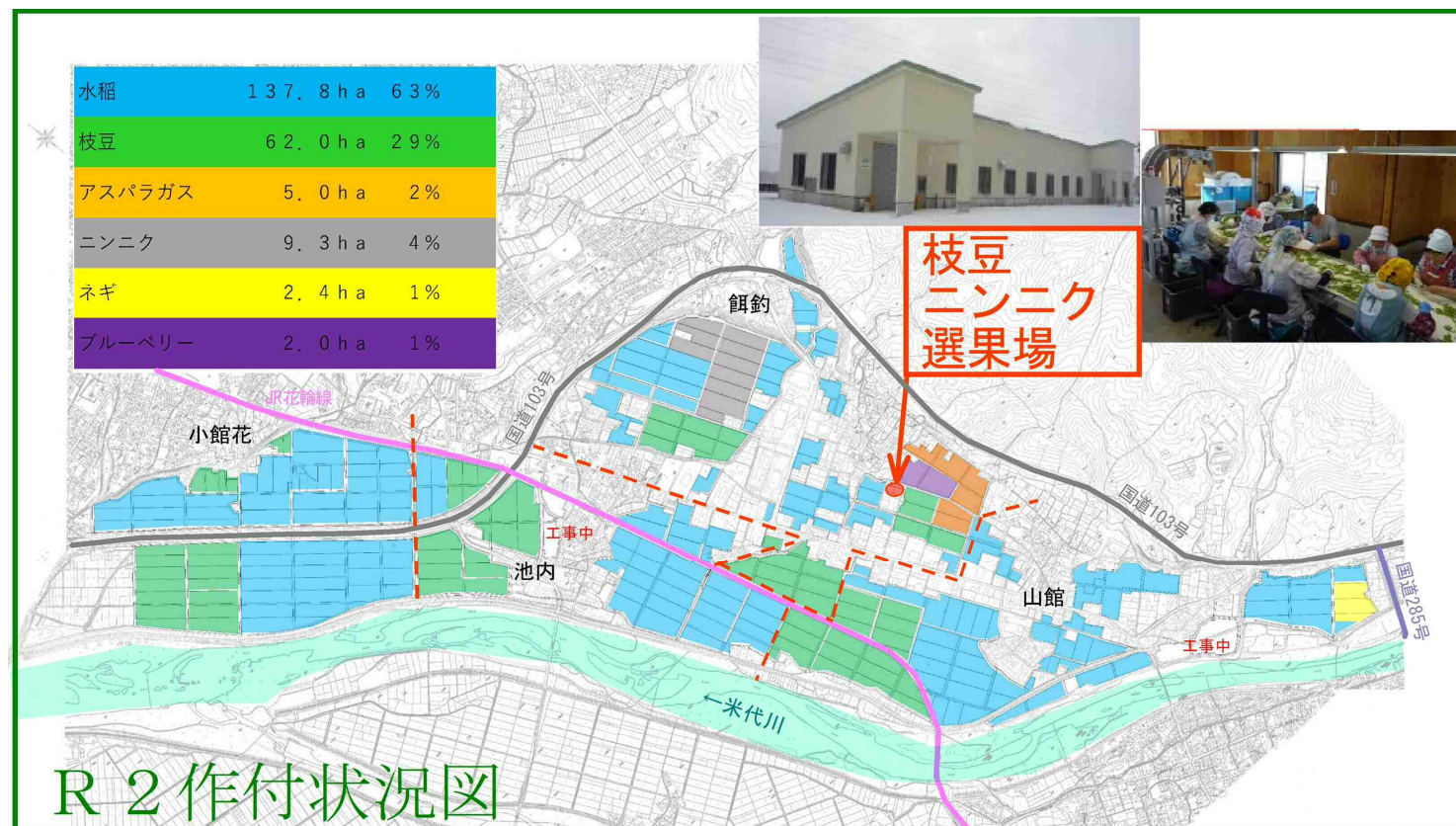
現時点

～米依存からの脱却にむけて～



- 4法人はH27年3月に設立済み。
- 区画整理はR1までに面整備され、大型機械導入による省力化農業を実現している。
- 大規模選果場を建設し4法人が連携し集出荷を行っている。選果場では常時20人以上の作業員が従事しており雇用創出と地域活性化に一役かっている。
- 園芸メガ団地の整備を併せて行っており、現在も畑作物面積を拡大中である。

一大拠点へまっしぐら



ストーンクラッシャー施工状況



ドローン活用例:ニンニク作付状況



整備中



えだまめ団地へ

○地元の声

- ・4法人連携によりやりがいを感じる。
- ・作業効率が格段に上がった。
- ・R3からドローン活用による除草剤散布や作付状況の把握等、スマート農業の推進を計画している。

～白神フランドを生かした地域農業の確立～

農地集積加速化基盤整備事業 轟 地区 （能代市）

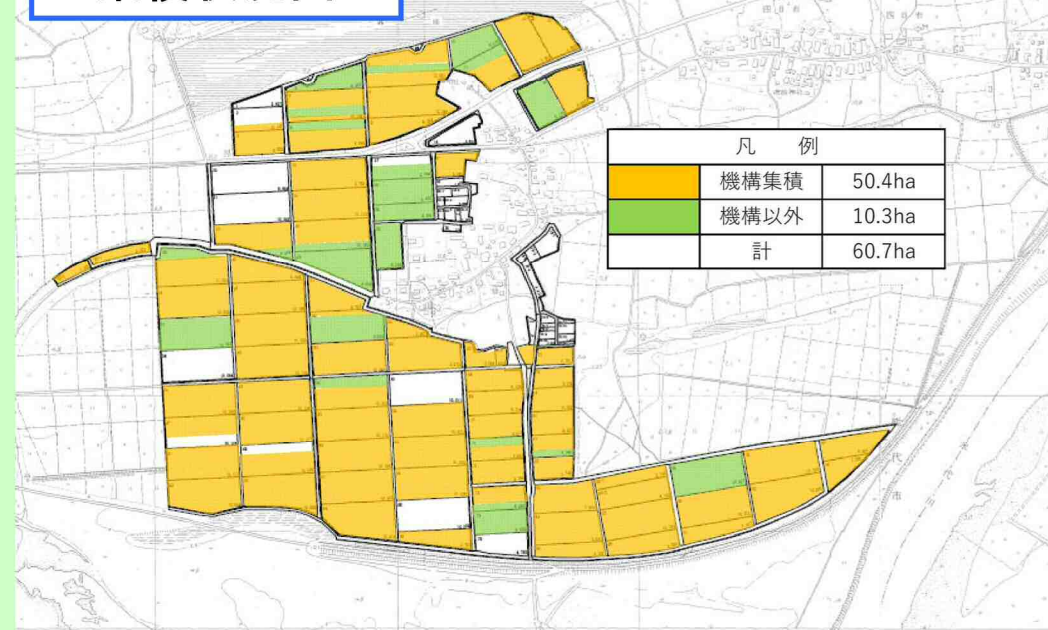
事業概要

- 受益面積 A=69.3ha（87戸）
- 総事業費 1,194百万円（H30完了）
- 担い手
 - ・農事組合法人 轟ネオファーム 平成22年5月設立
 - ・地区内集積面積 60.7ha
 - ・担い手農地集積率
事業前 3.7ha 5.2% → R2時点 60.7ha 87.5%

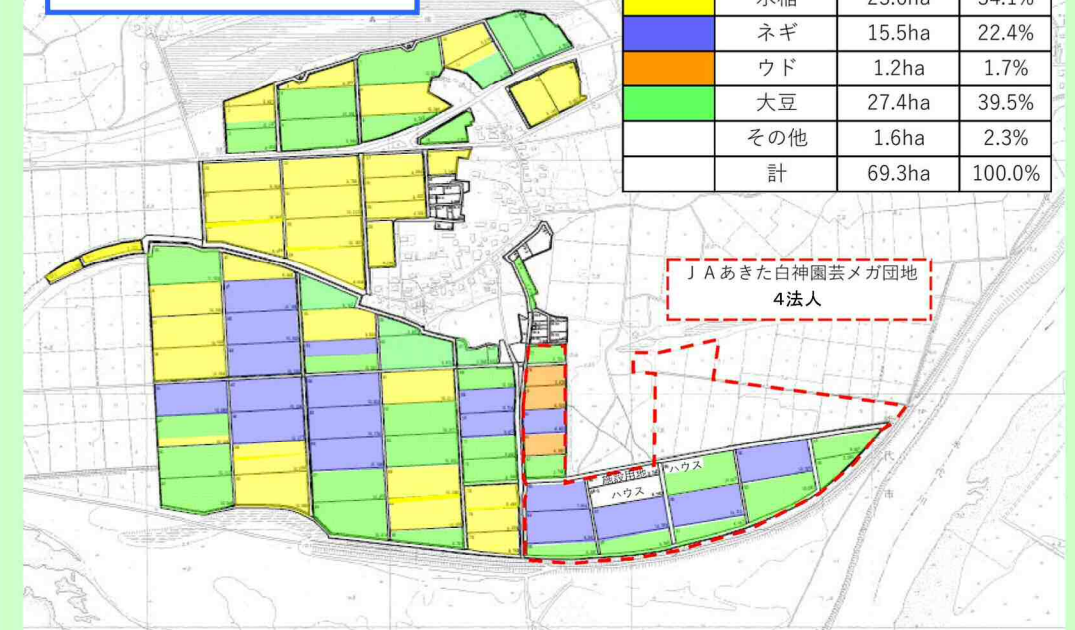
地区の特徴

- ①轟地区の87.5%を農地集積
既存の農事組合法人「轟ネオファーム」を担い手とし、農地集積率87.5%を達成。
- ②ねぎ等生産団地の集積・大区画化
労力を地元から採用し地域雇用を確保。これにより当初予定されていた能代市重点作物の拡大・集中化が進んだ。特に「ねぎ」は地域を代表する一大ブランドへと成長を遂げ、今後もさらなる成長・拡大を見込んでいる。
- ③青果物の効率性を重視した商品販売
ブランド化された「白神ねぎ」の栽培を最優先とし「加工用ねぎ」については、現在JAと販売先等確保に向け協議中である。また、商品化に向けて検討してきた「白神きりたんぽセット」は、関連企業の協力のもとJAを主体として販売中である。
- ④轟地区の伝統料理を貴方の食卓へ
「白神ねぎ」の更なる販売促進に向けて提言していた「ねぎラー油」が「味噌」の加工・販売とともに、JAを介して販売され、今後、「豆腐」「ミョウガの酢漬」等も商品化に向け、協議相談中である。また、地域販売所やスーパーの直売コーナーなどを活用した販売に向けて協議を進めている。
- ⑥地域産業として地域や子供へのPR活動
地域のNPO法人、自治会連合会、近隣の小中高等学校の生徒たちを招き入れ、施設の見学や農業体験を実施。また、農業に携わるための各種研修会、新規就農者確保に向けたインターンシップ等を開催している。

集積状況図



作付け状況図



現況は狭小な区画や土水路であったが、ほ場整備により大区画化・汎用化を実施し、効率的な営農とねぎの作付拡大を実現



白神ねぎ



白神ねぎラー油



令和3年度、秋田県主導のスマート農業「ICT等先端技術導入」による営農体系の確立に向け、新たに「能代地域ねぎ先端技術協議会」を立ち上げ、GPSによる直進アシスタントトラクターを活用した「畝立て、施肥、作溝」、ドローンによる「除草剤の散布」など、ねぎ管理作業の省力化、効率化の検証を行う計画である。

JAあきた白神園芸メカ団地とは

- ・入植者 農事組合法人が2団体と2人の生産者による4経営体で運営
- ・経営規模

作 型	春ねぎ (4月～6月)	夏ねぎ (7月～8月)	秋ねぎ (9月～11月)	冬ねぎ (12月～2月)	合計面積
面積	1.3ha	1.3ha	3.9ha	6.5ha	13ha
見込販売額	10,530万円	8,425万円	31,390万円	54,896万円	105,461万円
- ・生産イメージ
 - ・暗渠排水、地下灌漑システム完備による新たな作型の構築
 - ・「白神ねぎ」の生産及び情報発信の拠点とする
 - ・連作障害に対応したブロックローテーションの完全実施
- ・販売イメージ
 - ・スケールメリットを活かした幅広い販売チャンネルの開拓
 - ・市場出荷が主体だが、出荷量の25%を加工業務向けとし、調整作業の省力化を図る
 - ・契約出荷による安定した収入の確保
 - ・統一ブランドによる付加価値の高い販売体制
- ・交流イメージ 農作業体験や教育研修等の積極的受入

轟ネオファームの声 （代表理事 高橋氏）

- ・用排水やほ場・農道の整備に伴い、徹底した低コスト化が実現された。
 - ・農地の集積により周年雇用の場が確保できた。
 - ・全ほ場に地下かんがいシステムを導入したことにより、干ばつ時でも高収益につながっている。
- ただし、用水を暗渠管に入れての活用のため、草や小さなゴミが流れ込み、数年で詰まる問題が出ており、今後の課題となっている。

ほ場整備は未来への架け橋 ～ 中山間地域で若者に魅力ある農業の実践 ～

農地集積加速化基盤整備事業 小掛・鬼神地区(能代市二ツ井地域)

◆地区概要◆

- ・受益面積 A=25.0ha
- ・関係農家 71戸
- ・総事業費 761百万円(R3時点)
- ・集積実績
(農) 鬼っこファーム(H30新設)
経営面積 25.6ha(地区内22.0ha)
- ・集積率 現況 8.6%→R2実績 89.8%

◆地区の特徴◆

①農業法人を設立し農地を集積

農事組合法人 鬼っこファームを設立し、地区のほぼ全域を中間管理機構を通じて集積するとともに、30代の後継者を中心に経営を行う。

また地域集積協力金は法人設立時の運転資金に活用。

②事業による生産基盤の改善

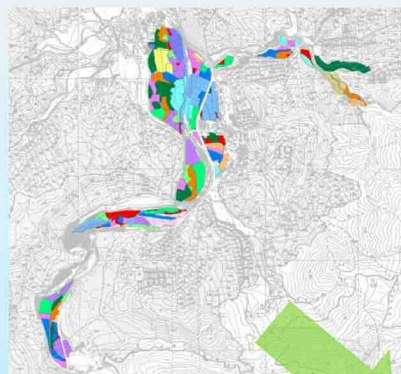
中山間地のうえ、狭いほ場や石礫などによる耕作放棄地化が懸念される営農条件が良くないほ場だったが、ほ場整備事業による区画拡大等を実施するとともに、高収益作物関連事業での石礫対策を行い、畑作も可能なほ場へ。

③収益向上を目指した戦略作物の導入

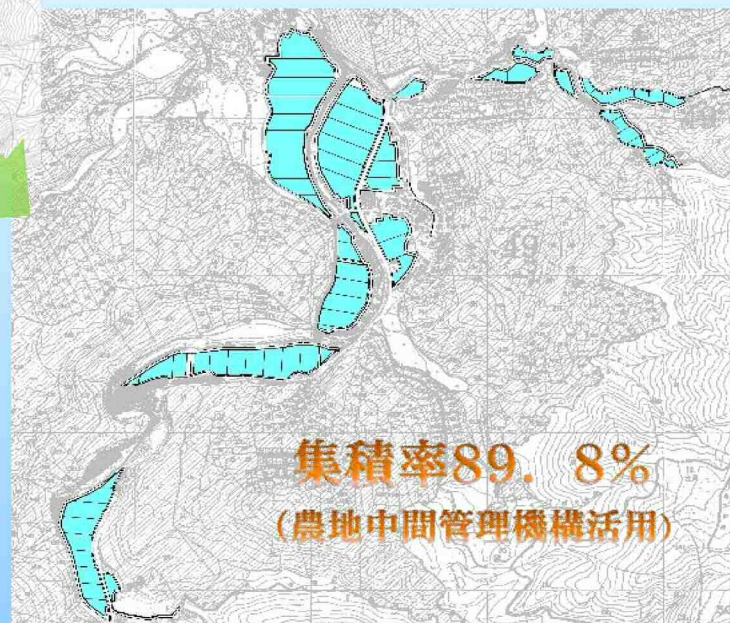
地元ブランドである白神ねぎ、白神山ウドなど白神ブランドを積極導入し、周年農業への取組を強化。

ねぎは園芸メガ団地「轟地区」のサテライト団地として目標販売額 3,000万円の達成に向けて取り組んでいる。

①法人を設立し農地を集積



地区のほぼ全域を法人へ集積



②事業による生産基盤の改善

中山間地のうえ営農条件が良くない現況ほ場(狭いほ場、石礫など)



生まれ変わったほ場

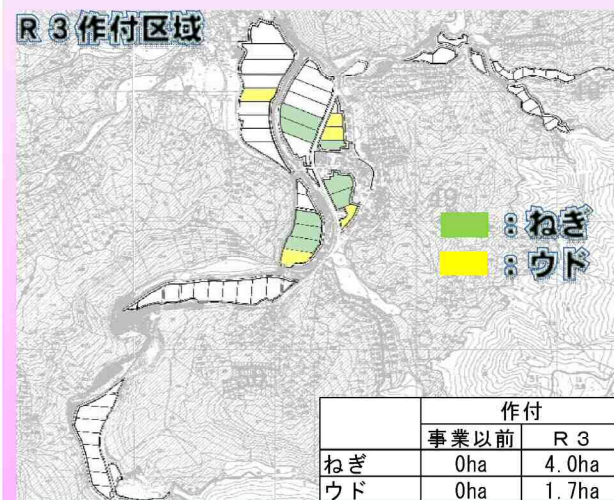


③収益向上を目指した戦略作物の導入

地元ブランド
「白神ねぎ」

「白神山ウド」の導入

園芸メガ団地整備事業のサテライト型を利用し
ねぎの販売額3,000万円を目指す。



鬼っこファーム



(農山代表(中央)と若手従業員)

事業をやらなければ耕作放棄地になっていた可能性もありました。

事業をきっかけにした法人は構成員10名とパート雇用(農繁期)16名で成り立っており、構成員のうち代表と常勤雇用2名が30～20代となっていて、世代交代が県内に類を見ないほどうまくいっていると思います。

農業はやり方によって稼げるチャンスがある仕事だと思っています。

元気な杉沢農業を目指して



集落ぐるみで高収入農業の実現を

農地集積加速化基盤整備事業 五城目杉沢地区【南秋田郡五城目町】

地区の概要

- ◎受益面積：A=31.6ha（44戸）
- ◎総事業費：911百万円
- ◎工期 H24～H30
- ◎営農形態：農事組合法人 杉沢ファーマーミング（設立 H22年2月）
 - ・経営面積：31.7ha（地区外含む）
 - ・構成員：24名
- ◎担い手農地集積率：現況 82.7% ⇒ 現在 98%

地区の特徴

現在

①集落型法人が地域農業を支える

農事組合法人「杉沢ファーマーミング」に農地を98%集積。集落ぐるみ経営及び若者を通年雇用し担い手不足解消に取り組んでいる。

②複合化で高収入農業へ転換

用排水改良及び区画の整備により転作作物の導入が容易になり、既存作物（枝豆、キャベツ、ほうれん草）を拡大。特に枝豆は需要が高く、重点的に拡大していく。また、現在セリの露地栽培に挑戦しており、今後実績を上げ冬期間のハウス栽培につなげていく。

③複合化、多角化の拡大

水稻育苗施設をフル活用し、ほうれん草の冬期栽培に取り組む。収入の確保及び雇用の場を創出する。

④儲かる農業へのチャレンジ

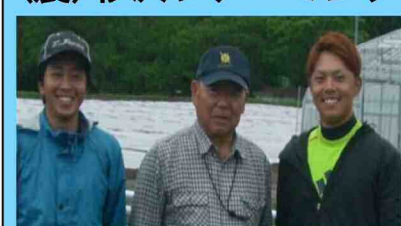
直売所への出品や農家レストランへの食材提供に取り組むとともに、ミニライスセンターを整備。今後も地域みんなで意見を出し合い様々な試行錯誤を重ね「儲かる農業」にチャレンジ。

今後の構想

⑤都市と農村との交流～地域資源の活用～

映画のロケ地、古民家風宿泊施設、農家レストラン、馬場目川の清流など、自然豊かな日本の原風景を体感できる地域を活かし、町と連携し体験型グリーンツーリズムの推進を図る。

(農)杉沢ファーマーミング【石川代表】



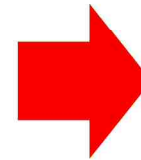
作物を育てる上で、決して条件が良いとは言えない山間部の限られた面積ではありますが、法人として自分たちで出来ること、可能なことを見出しながら、担い手の育成に努め農地と農業を守り、良い作物を作ること目標に杉沢ファーマーミングを運営していきます。

事業実施前



未整備（狭小な田、農道）

生産基盤が大幅に改善



事業実施後



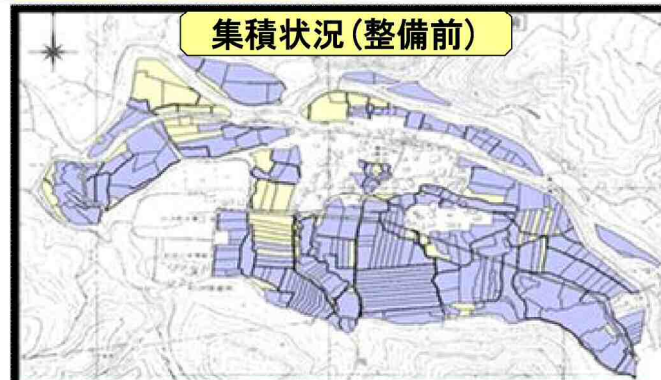
大区画ほ場により作業効率が向上

○整備前は狭小な田や農道のため、大型機械を導入出来ず、効率が悪いので転作作物の導入が困難

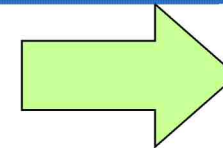


○基盤整備により区画が大区画化し、作業効率が大幅に向上、転作作物の拡大につながった。

集積状況（整備前）



農地の98%を法人へ集積



集積状況（整備後）



①集落型法人が地域農業を支える

現在

②③複合化で高収入農業へ



枝豆

6.6 ha

0.8 ha



キャベツ



0.5 ha

0.2 ha

ほうれん草



0.3 ha

0.2 ha

チャレンジ作物（セリ）



今後の構想

④儲かる農業へチャレンジ

地域みんなで、出来ることからコツコツと！



直売所への出品



ミニライスセンターの導入

⑤都市と農村との交流

体験型グリーンツーリズムの推進！



自然豊かな日本の原風景を体感



農家レストランの活用

ひらさわびとの現在 ～地域課題を解決し、活力ある平沢農業を目指す！！～

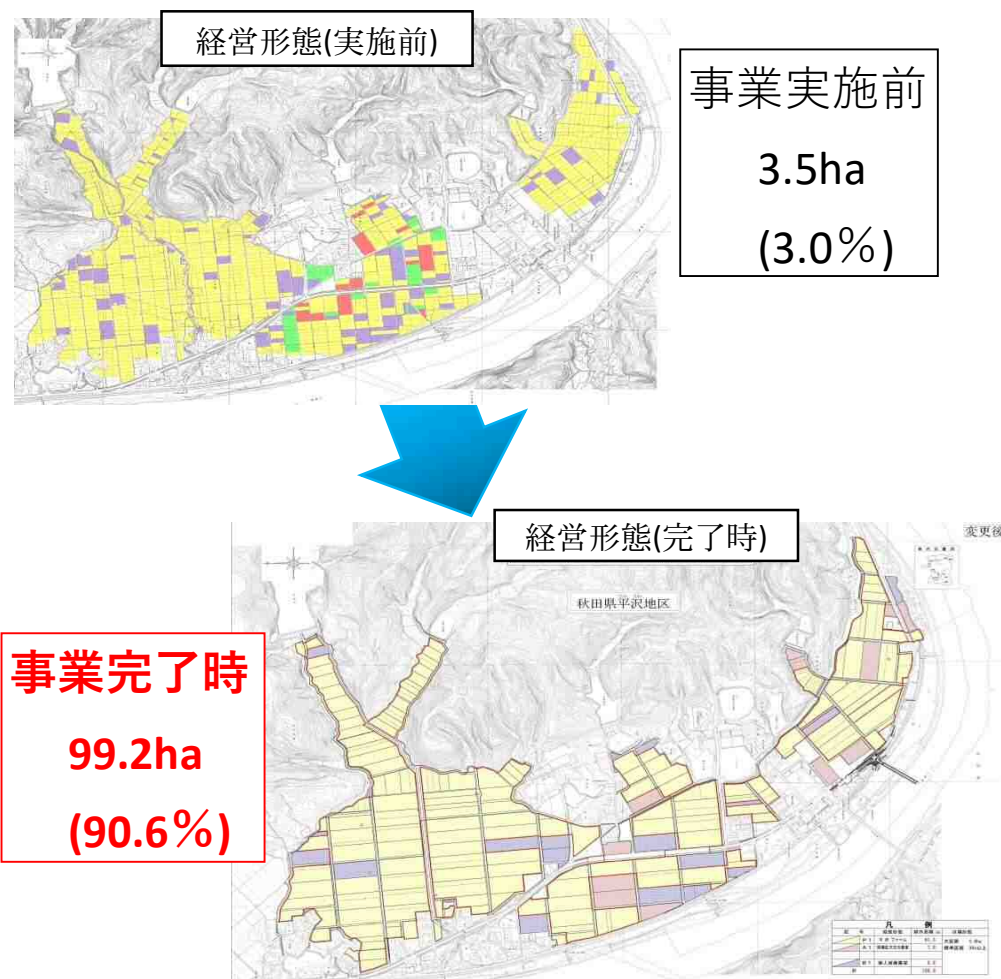
農地集積加速化基盤整備事業 平沢地区（秋田市雄和）

事業概要

- 受益面積 A = 109.4ha
- 関係農家 102戸
- 工期 H25～R1
- 総事業費 2,417百万円
- 営農形態 農業法人1組織、個人担い手1名
 - (1) (農)平沢ファーム 91.4ha
主たる従事者 6名 平成26年7月設立
 - (2) 個人担い手 7.8ha
- 農地集積率 現況 3.0% → 完了時 90.6%

※農地中間管理事業活用

集積状況図



事業実施前



現在



大区画化による園芸メガ団地を実現

事業実施後



ダリア
1.6ha(露地・ハウス)



現在

① 農業法人への農地・経営集約で地域課題の解消

- ほ場整備事業を契機に、平成26年に農事組合法人「平沢ファーム」を設立。
- 農地中間管理事業を活用し、法人に地区の83.5% (91.4ha) を集積。
- ほ場整備の実施により、未利用地を復田し水田をフル活用。
- 事業実施前はほとんどが水稻の作付（作付率55%で51ha）であり収入は多くても5千5百万円程度であったが、現在は1億3千5百万円と約2.4倍となり、地域の雇用拡大と活性化に大きく寄与。

② 安定した出荷体制と消費者を意識した生産で所得向上

- 地域の重点作物である大豆、枝豆、ねぎ、ダリアを作付けし、所得が大幅に向上。
- JAの園芸集出荷場の整備により、枝豆の作付を拡大。
- ダリア、大豆は種苗交換会で一等賞、県知事賞、農林水産大臣賞などを受賞。
- ねぎ、ダリア作業場の施設が完成。新たな雇用創出のほか、直売により収益の向上、従業員の福利厚生を向上。
- 現在は稲作の作付率45%と、さらなる複合化を推進。

③ 地域との交流の「場」を創出

- 地区の近隣にある国際教養大のほか、県立大、全農、JA等との研修や授業などを通じた交流活動を展開。
- 地域の小学校の田植えから稲刈りまでの農業体験を実施。
- ダリア、ねぎ、枝豆作業等の農業体験ツアーの受入を実施。
- 地域の枝豆が、ふるさと納税への返礼品として取り扱われている。

(農)平沢ファーム 齊藤代表



平成26年設立後、農地中間管理機構や園芸メガ団地を活用した複合化で順調な経営を維持してきた。

社員9名、季節臨時作業員20名程で後継者の育成に努めている。

4つの集落の集合体であるので地域の交流を深め一つの法人でさらに複合化を進め、雇用を創出し地域の活性化に寄与したい。



次世代へ繋ぐ鳥海三の心意気

～もの（農産物）づくり、とき（伝統）づくり、さと（平根）づくり～

【地区の概要】

地区名：平根地区

事業名：農地集積加速化基盤整備事業

所在地：由利本荘市鳥海町

工期：平成25年度～平成30年度（6年）

受益面積：54.7ha

総事業費：1,095 百万円

工事内容

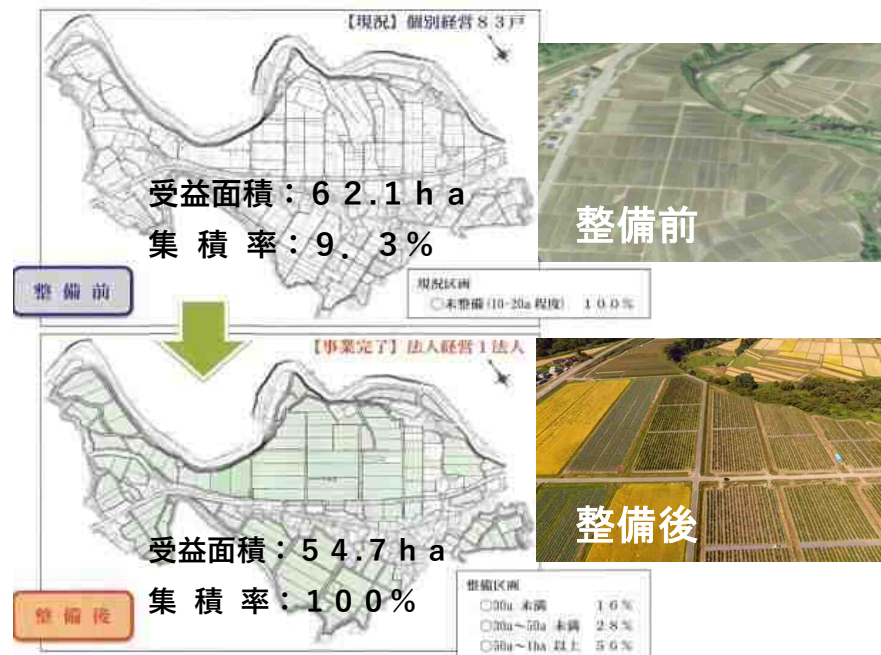
区画整理工：54.7ha

水路工：22.7km

道路工：8.7km

暗渠排水工：54.7ha

集積状況図



「秋田鳥海りんどう」の産地化で儲かる農業へ転換



<農事組合法人 平根ファーム>

・参加農家数 83戸（常時従事者：3名）

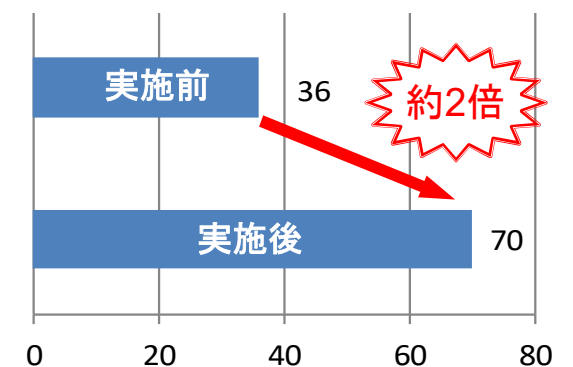
・経営面積 56.8ha（地区内54.7ha）

- ・特色
 - ほ場整備事業と農地中間管理事業を契機として、法人への農地集積が促進され、農業効率向上と収益性の高い作物を導入。
 - 区画整理による省力化や暗渠排水、地下かんがいシステムによる農地の汎用化により、地域ブランド「鳥海りんどう」、小菊、アスパラガス、キャベツを主な柱として複合経営を進め、冬はハウス栽培にも取り組み、収益拡大と地域雇用の維持を図っている。
 - 耕作条件改善事業を活用し地区内の耕作道を舗装し、荷痛み防止や粉塵の飛散防止による品質向上に努めている。
 - 施設や機械の導入による省力化、効率的利用による生産性の向上とともに、若手担い手3名と70名前後のパート従業員を雇用し、地域住民の所得向上と世代を超えた交流により、地元を元気づける。
 - これらの取り組みにより、「令和元年度 農業農村整備優良地区コンクール 農業振興部門」において農林水産大臣賞を受賞。

- ・今後の展開
 - 作業の効率化や生産コストの削減を目指して密苗栽培やGPS搭載の自動運転田植機の導入、ドローン活用による農薬散布などを計画している。
 - 低コスト化・省力化・スマート農業の実践を加速させ、若い担い手が規模拡大の夢と次世代農業経営の展望を描いていけるよう、力を合わせていきたい。

- 高収益作物の品目を絞り込み、**取組面積を拡大**。
- 中山間地域の冷涼な気象条件を活かしたりんどうは、「**秋田鳥海りんどう**」としてブランド化。
- 米以外の作物生産額に占める**高収益作物の割合は99%、同生産額は約2倍**に増額。

高収益作物の生産額（百万円）



地元の声

（下平根・80代）

家の周りや平根の国道周辺にある大型区画された田圃での耕起、代掻き、田植え、稲刈りを大型機械による作業でみるみるはかどり、なんと早く出来るものだ...

この地に80年余り住んでいますが、米作りも昭和から平成の時代の移り変わりの中で、作業も大きく変わり、手作業でおこなった田植え、稲刈り、ハサ掛けでの乾燥、そしてお米にしたことが思い出されます。

今、整備された農地には水稻以外に小菊、りんどう、アスパラガスも作付けされ地元の平根ファームが引き受けているので、この歳ですが安心して農地を荒らさないで守ってくれると期待しています。これもほ場整備のおかげであり、ありがたく思っています。



地域に根付く農業を目指して ～山間集落の挑戦～

農地集積加速化基盤整備事業

潟野十二峠地区 《仙北市西木町西明寺》

事業概要

- ①受益面積 A=25.3ha
- ②関係農家 27戸
- ③総事業費 755百万円
- ④事業期間 平成26年度～令和元年度
- ⑤農地集積率 現況 19.5% → 実績 100%
※農地中間管理機構活用
- ⑥営農状況 農業生産法人
 - ・農事組合法人 潟野ファーム (H28.5設立)
22.0ha (87%)
 - ・農事組合法人 サンファーム西木 (H18.2設立)
3.3ha (13%)

地区の特徴

○狭小だった区画や農道は地形に合った整備が行われ、地区内を流れていた1級河川潟尻川も改修されたことによって区画が良くなり作業効率が格段に向上。
○事業を契機として法人を立ち上げ、2法人で地区全域の農地を集積。
○現況では自己管理田が多く耕作放棄地になりかけていたが、基盤整備することによって農地も地域も守ることができた。
○耕作条件改善事業や元気な中山間応援事業により、除礫や収穫機の導入を行いながら、さといも、ほうれんそう、にんにく等の高収益作物に取り組んでいる。

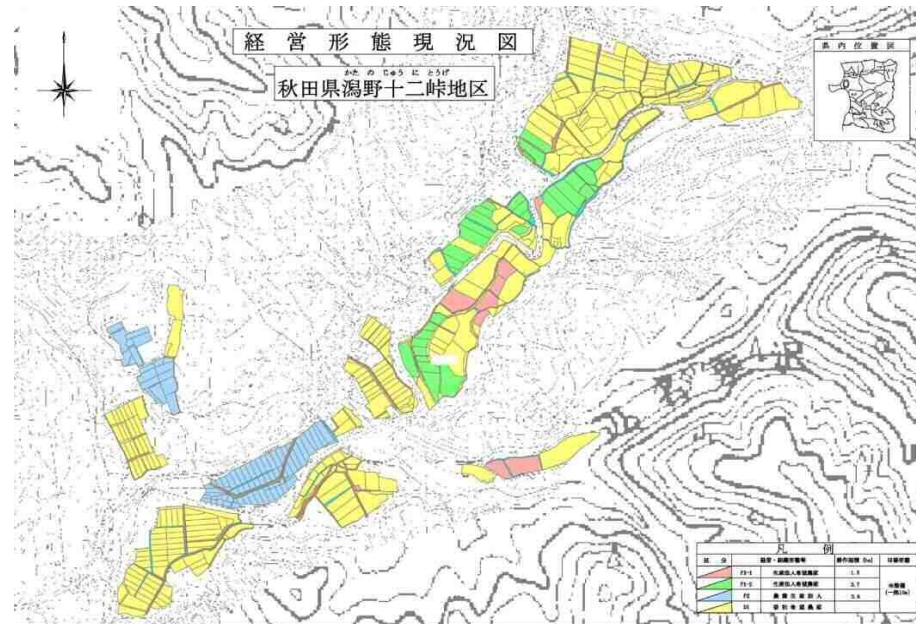
【法人の声】

地域に根付く農業のスタートラインに立ったばかり。
地域のお母さん方にほうれんそう栽培を任せたり、西明寺スイートポテトプロジェクトからサツマイモ栽培を受託したりと徐々にではあるが法人らしくなっている。

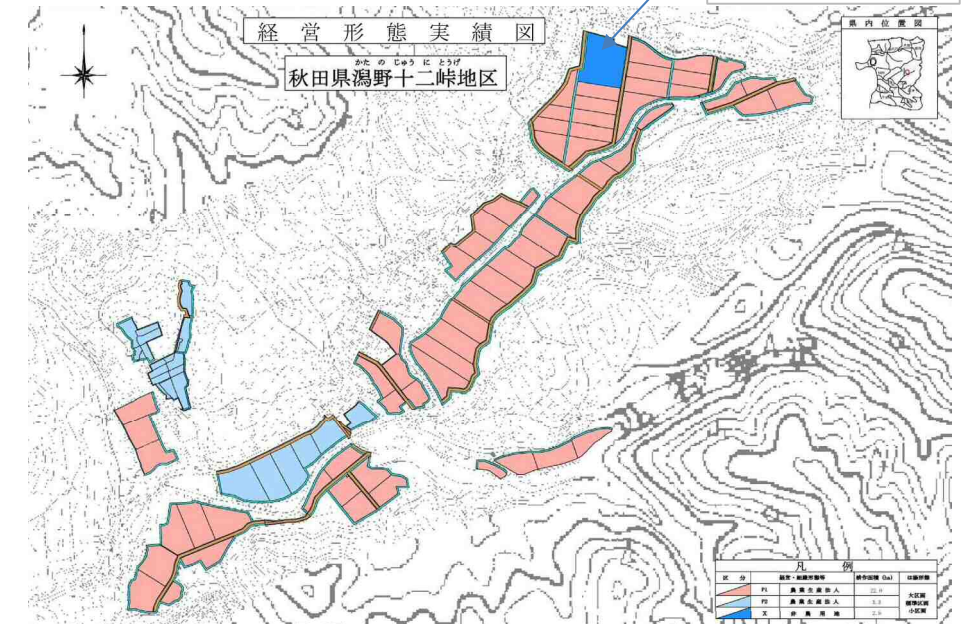
土作りや栽培ノウハウを身につけながら高収益作物を導入し、ゆくゆくは直売活動と“そばの郷”で山間集落でも儲かる農業に挑戦したい。



経営形態現況図



経営形態実績図



現況：狭小な田と農道



地形に合った基盤整備



さといもの収穫



現況：大きく蛇行している潟尻川



河川改修で区画も良くなった



ほうれんそうの収穫

地域の「人・物」総動員で新たな農業 ～稲作中心から複合型農業経営へ～

農地集積加速化基盤整備事業 畑屋中央地区 (仙北郡美郷町、大仙市)

◆地区概要

- 受益面積 A=291.5ha
- 関係農家 219人
- 総事業費 5,776百万円(令和3年度時点)
- 工 期 平成29年度～令和6年度(予定)
- 集積計画
 - (1)農業生産法人 5法人(うち新設3法人)
 - ①(農)安城寺ファーム(新設)
経営面積 地区内128.0ha
 - ②(農)中野園(新設)
経営面積 地区内 69.7ha
 - ③(農)緑の大地(新設)
経営面積 地区内 37.5ha
 - ④既設2法人 地区内 12.8ha
 - (2)個人担い手2名 地区内 7.1ha
 集積計画 計 255.1ha
- 農地集積率 現況50.4% → 計画87.5%

◆整備状況



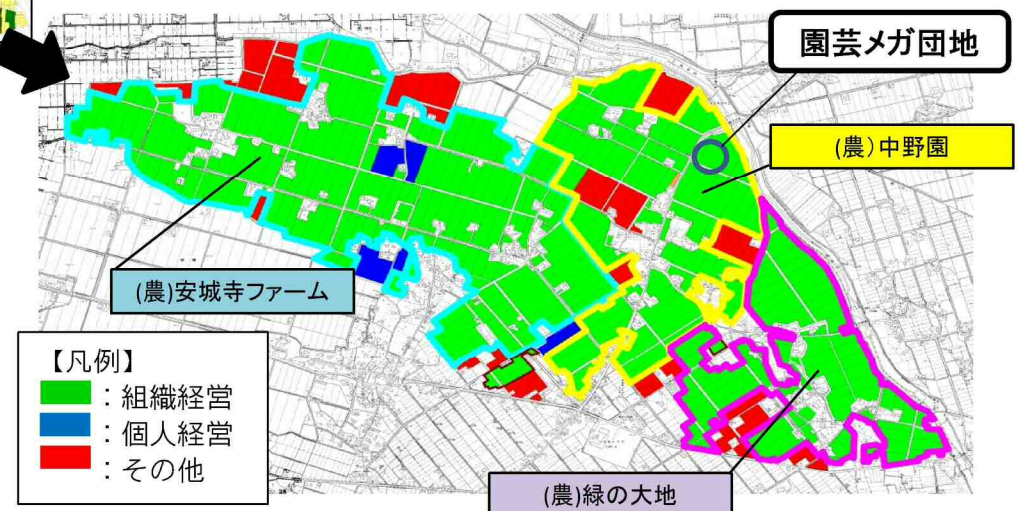
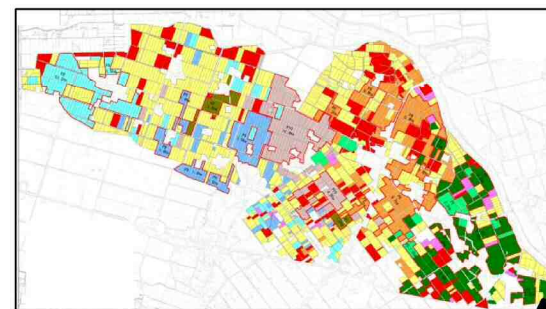
現況10a

- R2年度まで実績
- ・区画整理 239.0ha 進捗率 82%
 - ・R3で面工事完了予定
 - ・暗渠排水 113.8ha

現況10aから1ha区画に整備されるとともに、
営農の支障となっていた湧水処理対策も適切に行われ、効率的な営農が図られている。



◆集積状況



～力強い経営体の育成～

新設3法人に地区内の236ha(約8割)を集積し、新たな農業に挑戦します。

OR2年度まで集積実績 地区全体 250.7ha
うち新設3法人 計 230.9ha
集積率 86.0%(目標の98%)
農地中間管理機構活用面積 236.9ha(受益面積の81%)

◆地区の特徴

～地域の「人・物」総動員で新たな農業～

人 「地域の人材をフル活用」

- ・年間を通じた雇用確立のため3法人が労働力をシェアします。
- ・地域内のハウス栽培技術を共有し、きゅうりを主体とした園芸メガ団地を造成します。
- R2年度より団地造成開始
- 栽培ハウス 34棟完成、R3より作付開始
- R3年度、残り32棟建設中

物 「地域資源をフル活用」

- ・地域の宝「湧水」を利用した農業の取り組み
- セリ栽培の取り組みを検討中
- 先進地研修を実施
- ・直売所を利用した新たな販路拡大の取り組み
- 既設直売所(コムタみさと)活用中
- (きゅうり、ほうれんそうの販売)

～地域の「人・物」を最大限活かした法人経営を目指して～

◆営農状況

ハウス栽培の取り組みを共有し、地区内にきゅうりを主体とした園芸メガ団地を造成



【園芸メガ団地整備計画の概要】

1. 事業名: メガ団地等大規模園芸拠点整備事業(ネットワークタイプ)
2. 事業実施主体: (農)中野園、(株)たかはし農舎
3. 事業目的: 共通品目「きゅうり」の販売額1億円の達成
4. 主な整備計画
 - (農)中野園 栽培パイプハウス 56棟
 - (株)たかはし農舎 栽培ハウス(軽量鉄骨) 10棟
5. 事業実施期間 令和2～3年(2カ年)



農事組合法人 中野園
代表理事 深沢 靖さん

・雇用の確保が課題だが、今は「女性の時代」で、一番活躍してもらっている。(常時10人前後)

・高齢者が自立心を持って稼げる場所になってもらいたい。

・外でも活躍できる若い人を育てたい。

・きゅうりをベースとして、花や他の作物にも共通して取り組めると思うが、今は、このメガ団地が失敗に終わらないよう奮闘中である。

スマート田んぼダム実証事業の取り組み

ほ場整備地区内において、美郷町干畑土地改良区が事業主体となり、R3年度より着手しました。

約10haの実証田において、自動給排水装置を設置し、大雨時にスマートフォンによる遠隔操作で、一斉に落水した後、大雨時の貯留と流出抑制を行い、流出量等を計測し効果の検証・分析を行う予定です。

大雨による下流域の洪水被害軽減や、水管理作業の省力化が期待されます。

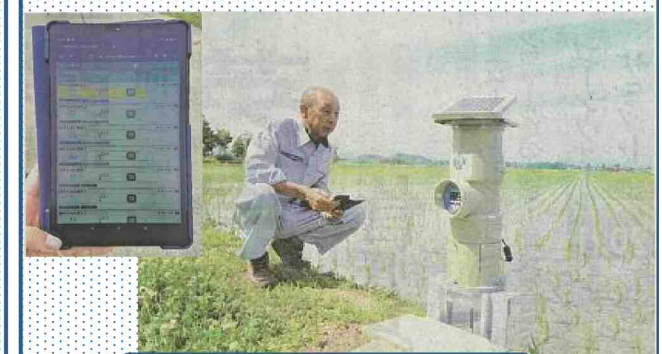


写真: R3.6.12 さきがけ新報より

～地域がつながる新たな営農への挑戦～

農地集積加速化基盤整備事業 境町西部地区 《横手市》

【事業概要】

- 受益面積 A = 35.0ha
- 関係農家 42戸
- 総事業費 876百万円（R3時点）
- 営農構想 農業生産法人 3法人、個人担い手3名
- ・(農)塚堀農事生産組合（地区内 20.2ha 地区外 231.9ha）
- ・(農)加藤農産（地区内 5.5ha 地区外 6.6ha）
- ・(農)ファーム桐原（地区内 1.1ha 地区外 8.4ha）
- ・個人担い手（地区内 6.0ha 地区外 26.0ha）
- 農地集積率
現況 51.1% → 実績 93.7%



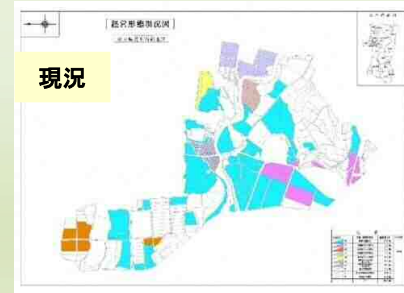
大きく生まれ変わった整備後のほ場



整備前のほ場(小区画・農道狭小)

○ 将来を担う担い手の確保・育成と農地の集積

【地区内集積計画】



現況

農地集積率 現況 51.1%

実績 93.7%



計画

※主な作付作物
キャベツ、小麦、大豆（予定含む）

【地元農業法人からの声】

- ・ほ場整備事業による小区画、不整形田や湿田の解消、農道の拡幅で大型農機の導入が可能となり、作業効率が格段にアップしている。
- ・未利用地が多くなりかけていたが、ほ場整備により全て解消した。
- ・暗渠排水、地下かんがいシステムの整備が進んだことで畑作物の導入を具体的に検討できるようになった。

○ 耕畜連携による循環型農業

地区内で生産されるWCSや飼料用米を市内の畜産業者と連携し、耕畜連携による循環型農業を確立



【地区の特徴】

【これまでの取組】

① 将来を担う担い手の確保・育成と農地の集積

地区の大部分が未整理で区画が不整形なため、作業効率が悪く大型機械の導入ができないことが課題となっていたが、ほ場整備事業を契機として既存の法人及び個人担い手と合わせて地区内農地の約94%が集積され、地域の農業・農地が守られている。

② 耕畜連携による循環型農業

ほ場整備事業を契機にホールクロップサイレージ(WCS)や飼料用米の作付けを増やし、水土里ネット南旭川管内の他地区と共に地元の畜産業者との連携を図り循環型農業を確立している。

③ 「スマート農業」に向けた施設等の導入整備

地域での「スマート農業」技術の普及推進のため、GNSS（全球測位衛星システム）を活用した自動操舵装置搭載農機（トラクター、田植え機）の導入と合わせて地上基地局を整備。

【これからの展望】

① 新たな営農「スマート農業」への挑戦

自動操舵装置搭載農機の導入により、作業の均一化、高品質化を図る。水稻栽培だけでなく、キャベツ、小麦等の畑作物栽培での活用も進め、魅力ある農業経営のモデルケースとなることで、地域での若手就農者の確保と地元定着を目指す。

② 農業法人による野菜の団地化

農業法人が国産野菜の加工販売を手がける企業と提携し、カット加工用キャベツを他地区で栽培。水稻栽培を収益のベースとしながらも、収益性の高い作物栽培と販売先の確保により、安定した法人経営を実現させており、当地区でもキャベツの団地化を計画。

ほ場整備事業により整備が進む地下かんがいシステムを最大限に活用し、農地の汎用化が促進されることで作付け面積の拡大を目指す。

③ 効率的で収益性の高い営農への挑戦

魅力ある地域づくりを目指すと共に、水稻(WCS)→小麦→キャベツの2年3作の栽培体系を構築し収益性の高い農業経営の確立を目指す。

○ 新たな営農「スマート農業」への挑戦



営農ニーズに合わせた施設等の整備・導入



秋田県南旭川水系土地改良区によるGNSS地上基地局の設置・整備（R2年度）



自動操舵装置搭載農機による代掻き・田植え作業



自動操舵農機監視用タブレット

GNSS測位衛星からの電波と地上基地局からの位置補正信号を併用することで精度2～3cmでの作業を実現。

【メリット】

- ①作業中の運転操作がほぼ不要となるため、オペレーターの負担軽減が図られる。
- ②熟練した機械の操作技術、経験が無くても品質の高い作業成果を得ることができる。

水稻栽培だけではなく畑作物の栽培作業への活用を検討

先進的な「スマート農業」技術を積極的に導入し、収益性の高い取組を併せて行うことで、魅力ある農業経営のモデルケースとなることを目指す。

○ 農業法人の野菜の団地化（R4以降取組予定）

キャベツ(カット加工用)を主体とした葉菜類の団地化を計画



(農)塚堀農事生産組合

H28から提携

(有)ワールドファーム（加工野菜工場）

キャベツ

2.7ha（H27：地区外）試験栽培

4.2ha（計画：地区内）

地区外の耕作地で収穫したキャベツの供給をH28から開始

境町西部地区での暗渠排水・地下かんがいシステムの導入に合わせて、R4から地区内でのキャベツの作付けを開始する予定

○ 効率的で収益性の高い営農への挑戦（R4以降取組予定）

水稻、WCS（5月～9月）→小麦（10月～7月）→キャベツ（7月～10月）の2年3作の栽培体系を構築し収益性の高い農業経営を目指す。



WCS



小麦



キャベツ

	1年目				2年目			
	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
水稻・WCS	◆直播も実施						◆稲刈りに伴って耕起～播種	
小麦								
キャベツ							◆小麦収穫までに苗を育て、収穫後に植え付け	

三位一体あきた型ほ場整備で進める“せり、ねぎ”の園芸メガ団地 ～三関の“おいしい”を食卓に届けます～ 関口地区(湯沢市関口)

I. 地区概要

全国初！！
農家負担のない農地中間管理機構関連ほ場整備事業

【地区概要】		
受益面積	関係農家	総事業費
26.0ha	77人	793百万円
集積計画 現況44.2% → 計画100%		
法人経営	個人担い手	その他
17.7ha	6.8ha	0ha
法人計画 現況1法人 → 計画2法人		

《事業量》

・整地工	A=26.0ha
・暗渠排水工	A=25.6ha
・道路工	L=4.0km
・用水路工	L=7.6km
・排水路工	L=4.9km

農地中間管理機構を活用し
100%集積！

II. 整備状況

整備前



区画が狭小、不整形



せりハウスが点在

整備後



大区画に



せりハウスの団地化

○区画が狭小で不整形であり、大型機械を導入出来ないため、効率が悪く自己保全農地が増加していた。

○区画が大区画化し、効率的になったことで自己保全農地の解消。

○せりハウスの向きや位置が無秩序に点在。

○せりハウスに合わせた区画に整備。効率的なハウス配置に。
○暗渠排水を整備したことで、排水が良くなり作土に亀裂が入って根が伸びやすくなり、せりの品質が向上。

III. 集積状況



法人面積	4.6 ha
個人担い手面積	8.0 ha
個人農家面積	15.9 ha

集積率**44.2%**

IV. 営農状況

事業前

水稻、酒米	13.3 ha
飼料用米	0.6 ha
せり	2.1 ha
小菊	0.9 ha
ねぎ	0.6 ha
自己保全	7.0 ha

区画が狭小で道路もなく作業効率が悪い
ため自己保全農地が増加

V. 地元の声



関口ほ場整備事業推進委員長
関口園芸団地組合長
佐藤 義雄さん

関口地区園芸メガ団地の概要

事業費：182百万円 事業期間：R2～R3
事業実施主体：関口園芸団地組合
(組合長 佐藤 義雄、1法人・10個人)
品目及び規模：せり 2.5ha(施設1ha、露地1.5ha)
ねぎ 3.5ha

事業内容：
せり・パイプハウス41棟、予冷库、トラクター等
ねぎ・育苗施設、ねぎ収穫機、ねぎ乗用管理機等



三関ファーム専務
あきたアグリネット専務理事
小松 徹さん

農事組合法人 三関ファームの概要

設立：平成19年4月19日
経営規模：水稻55ha、小菊3ha、みつば水耕栽培
せり(ハウス17棟、露地0.3ha)

障がい者就労支援事業施設

NPOあきたアグリネットの概要
設立：令和元年10月7日
活動理念：障がい者に対して、生活支援に関する事業を行い、障がい者が暮らしやすい地域づくりに寄与。

ほ場整備・中間管理機構・園芸メガ団地

三位一体あきた型ほ場整備

法人面積	17.7 ha
個人担い手面積	6.8 ha
個人農家面積	0 ha

集積率**100%**
全農地中間管理機構設定

せりとねぎの
園芸メガ団地造成

ねぎ団地

せり用パイプハウス41棟

R3実績

水稻、酒米	17.5 ha
飼料用米	0 ha
せり	3.6 ha
小菊	0 ha
ねぎ	3.4 ha
自己保全	0 ha

ほ場整備を中間管理機構による農地の集積、メガ団地による産地づくりと三位一体で推進！

・ほ場整備をやろうとしたきっかけは？
○自己保全農地が増えてきて、周りで営農しているほ場にも自己保全農地から虫や野生動物が来るといった悪い影響が出ていた。また、自己保全農地を相続する子ども達が都会に出て働いており、親世代がいなくなると相続者に連絡すら取れなくなってしまう恐れから、ほ場整備事業を行って問題解決を図ることになった。

・メガ団地をやろうとしたきっかけは？
○元々せりやねぎ栽培をやっていた栽培のノウハウがあった。ほ場整備により基盤が整備されることを契機に規模拡大する事になったので、施設を導入するにあたっては売り上げ増加などハードルは高かったが補助率などが有利なことから関口園芸団地組合を作り挑戦した。

・ほ場整備事業前後でどういった変化がありましたか？
○経営面積は増加したが農地が集約化し、基盤が整備されたことで作業効率が上がり、労働力に余裕が生まれ、管理作業に専念出来るようになった。ねぎの品質も向上し、種苗交換会では秋田県知事賞・農林水産大臣賞を3年連続で獲得した。



メガ団地で造成した
せりハウス



せりの収穫の様子



ねぎの定植作業



地域貢献活動として
湯沢小学校で講演

・農地中間管理機構を活用するメリットはなんですか？
○小作料の支払いを個別にやなくていい。農業が分からない人にも中間管理機構が間に入ってもらうことで説明が楽になった。機構で農地のデータをまとめてくれているので経営面積がすぐに分かるのもいい。

・農福連携に取り組んだきっかけはなんですか？
○稲川支援学校に生徒さんの受け入れをお願いされたのが始まり。その後、福祉施設からも受け入れし、人数が増えてきたのでNPO組織化する事になった。今ではみつばや小菊の調整作業などを協力してもらっており、三関ファームにとってなくてはならない存在になった。



みつばの調整作業
の様子



黄色い枯葉を取り除く



小菊の下葉処理
地域の雇用創出に寄与

・法人の将来の展望は？
○今働いているもらっている人達が高齢になって力仕事が増えた時や、将来今より若者が少なくなっても雇用や売り上げを維持するために菊の自動選別出荷機など機械を導入して人間が楽なすることで作業効率を上げていきたい。
○ほ場整備をすることで今まで話した事が無い人ともつながりが持てることが出来た。農業以外の事でいいので関係者みんなが頑張って良かったという結果につながる事をしたい。



三関ファーム
石塚職員 小松専務